

所報



巻頭言

一年経過した特別支援教育から想うこと

大阪教育大学名誉教授 竹田 契一



学校教育法等の一部改正を受け平成19年度より特別支援教育が実施に移された。この教育は全国の幼稚園、小・中学校及び高等学校において、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、『個に応じた教育的支援』をLD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害の幼児児童生徒に対して行う新しいプログラムである。特に一人一人の教育ニーズをしっかりと把握することにより「この子はどこでつまづいているのか」の認識がもてる教師を育て、その子どもたちのもてる力を伸ばし、幼児期から学校卒業までの生活や学習上の困難を改善・克服していくために必要な支援を行うものである。

児童生徒の「つまづき」の具体例をあげ、分かりやすく解説すると次のようになる。

40人学級で担任が大きな声で「皆さん、こちらを向きなさい」と指示する。こちらを向けない児童生徒には容赦なく声をとぶ。「Aさん、こちらを向きなさい」しかし、特別支援教育では、「なぜこちらを向けなかったのか」をしっかりと調べてから対応を考える。Aさ

んがこちらを向けなかったのは聞こえていなかったのか（聴力の問題）、聞いていなかったのか（注意集中力の問題）、言われている意味が分からなかったのか（理解力の問題）、または先生の指示に従うことよりもっと彼にとって興味を引かれることがあったのか（優先順位を間違えている問題）というように、必ず「指示が聞けない」という状態には要因があると考えべきであろう。特別支援教育では、この「なぜ出来ないのか」を調べることで適切な対応や支援が生まれてくる。

すなわち、これからの教育現場はアンテナを張り巡らせたきめ細かいかわりの中で、一人一人のニーズに「気付く」シャープな感性が教師に要求されてくる。更にクラス一人一人の認知と学習スタイルの多様性を見る視点が教師に生まれると、教育上のあらゆる問題を解決させていく糸口が見つかるであろう。このことから特別支援教育は学校・教員の意識改革である。

もくじ	○巻頭言 P. 1	○受講者の声（キャリアアップ講座から）	... P. 4
	○研修講座だより③ P. 2	○教育センターの事業に関するアンケートについて	... P. 5
	○指導主事研究の紹介③ P. 3	○教育センターひろば P. 6

研修講座だより ③

2月までに実施した研修講座(一部)の概要を紹介します。

小学校教員のための教室英語演習講座

主題 「小学校で使える教室英語」

講座の概要

本講座は、小学校教員の英語運用力を高めるとともに、英語活動運営に関する基本的知識・技能を高めることをねらいとして、今年度新設開講しました。受講者数は予定を大きく上回る91名で、教室英語に対する先生方の関心の高さをうかがうことができました。

2日間の研修の内容及び受講者の声は次のとおりです。



○ 教室英語を使うメリット等についての講義

教室英語について定義した後、具体的な英語表現例を提示しながら、学級担任が教室英語を使うメリットや使う際の留意点について解説しました。

○ 英語の発音練習についての演習

発音記号を極力用いることなく、敢えて日本語の「あいうえお」を積極的に活用して、英語の発音練習を楽しみながら行いました。

○ 教室英語を多用した模擬授業の実施

「あいさつ」→「学習課題提示」→「慣れ親しむ活動」→「振り返り」と、教室英語を実際に用いて45分間の授業を擬似体験しました。

受講者の声

- ・ 英語には苦手意識がありましたが、ゲームや発音練習を楽しみながら行う方法が分かれば、私にも授業ができると思いました。
- ・ 英語だけでなく、他教科でも使える活動がありました。取り入れていきたいと思います。
- ・ 今回のような授業づくりの練習を2～3回すると力が付くと思います。
- ・ できるだけ教室英語を覚えるべく、何度も何度も唱えるつもりです。
- ・ 本当に楽しかったです。時間があっという間に過ぎました。継続して何度も受講したいと思いました。



ひろしま理解講座

主題 「わたしのひろしま見聞録」～アナウンサーの仕事を取り返って～

講師：元RCC中国放送アナウンサー 井尾 義信 先生



講座の概要

「ひろしま理解講座」は、広島を拠点としてご活躍されている方を講師として招聘し、その生き方や考え方にふれることを通して、郷土広島のよさを生かした教育活動を推進していくために必要な見識や資質を高めていただくことを趣旨としています。

2回目となった本年度は、元RCC中国放送アナウンサーの井尾義信先生を講師としてお迎えしました。講演の内容及び受講者の声は次のとおりです。

○ 寄り道のすすめ

大分出身の井尾先生が、広島でジャーナリストとして仕事をするうえで一番困られたのは、地名を知らないことでした。そこで、まず最初に、広島の名前、川、橋、駅の名前を覚えようと歩き回られたそうです。実際に足を運ぶことで、地名を覚えるだけでなく、広島への愛着も湧き、広島を好きになった、とのことでした。コツは、行きと帰りで同じ道を通らないこと(寄り道をする)ことだそうです。

○ 話し上手になるために

アナウンサー時代の生放送のトーク番組「井尾義信のコーヒータイム」のエピソードから、話し上手になるためには相手が話しやすい雰囲気をつくること、と話されました。学校でも、教師から話すばかりでなく、相手(子ども)からたくさん話を引き出すことができる人(教師)が、話し上手ということでした。

受講者の声

- ・ 広島を愛する心を子どもたちに育成したいと思います。
- ・ 児童とのかかわり方の基本を学ぶことができました。
- ・ 郷土について改めて学びたいです。
- ・ 講師の話し方が素敵だと思いました。

指導主事研究の紹介③

指定都市教育研究所連盟第15次共同研究の紹介

教育センター指導主事 胤森 裕暢

子どもが社会において、自立的に生きるための力を育てることを目指して教育実践が続けられていますが、こうした教育の営みは、子どもたちの姿（実態）とその思い（意識）をとらえながら、絶えず見直され、より確かなものへと改善する必要があります。

指定都市教育研究所連盟（以下「指教連」、現在、16都市加盟）は、これまで40年以上にわたって共同研究を行い、大都市の子どもたちの実態や意識の把握を通して、教育の現代的課題を解明し、これからの日本の教育の在り方について提言をしてきました。

表1 指教連第10次共同研究以降の刊行物（発行年）

第10次	『揺れる子どもの自己像』（平成6年）
第11次	『子どもの社会認識をさぐる－自己確立へのたびー』（平成9年）
第12次	『子どもがとらえた教育環境－人・空間・時間・情報から何を学んでいるかー』（平成12年）
第13次	『教育改革の中の子どもたち－生活・人間関係・自己像・学校の視点からー』（平成15年）
第14次	『教育の確かな営みを推し進めていくために－今を生きる子どもたちの姿や思いを探るー』（平成18年）

現在行っている第15次共同研究では、これまでの成果と特徴を踏まえ、第14次の調査結果との経年比較を通して、学校・家庭・地域社会の子どもたちへのかかわり方、三者の連携等について提言をしたいと考えています。このため、次のように主題などを設定し、研究を進めています。

1 研究主題

今を生きる子どもたちの姿や思いを探る
－学校・家庭・地域社会における
生活や学習の継続調査を通して－

2 研究の方法・対象

- 方法：平成19年9月に質問紙法（設問数43問）による児童生徒の実態及び意識についての調査を実施
- 対象：15政令指定都市に在籍している小学校4年生、小学校6年生、中学校2年生（1学年あたり7,200人、全体で21,600人）

3 調査の観点

上述の研究方法に沿って、次のように調査の観点を設定し、各都市が分担して分析を行います。

表2 調査の観点（設問数）

家庭・地域社会	家庭・地域社会における生活	(12)
	家庭・地域社会における学習	(10)
学校	学校における生活	(11)
	学校における学習	(10)

4 研究の流れ

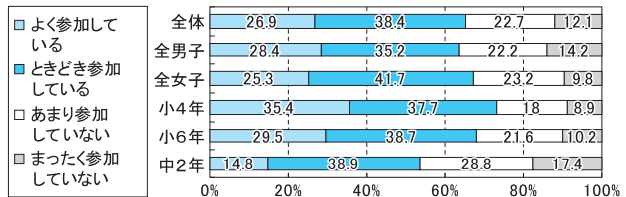
昨年度（1年次）は調査問題を作成し、本年度（2年次）は調査を実施し調査結果集計表を作成したところです。来年度（3年次）は、経年比較やクロス集計結果も合わせて分析・考察を行い、報告書を刊行します。

5 調査の集計結果

次に、調査結果の一部を紹介します。

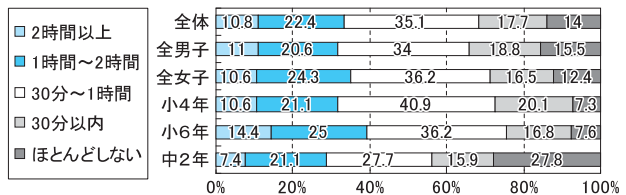
【家庭・地域社会における生活】

設問11. あなたは、地域の行事や活動（お祭り、レクリエーション、スポーツ、奉仕活動など）に参加していますか。



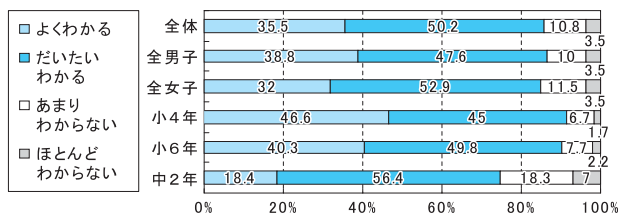
【家庭・地域社会における学習】

設問13. あなたは、学校がある日、だいたいどのくらい家で勉強していますか。



【学校における学習】

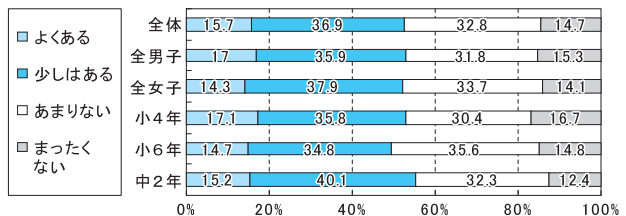
設問34. あなたは、学校の授業がわかりますか。



次は、第15次共同研究で新設した設問の結果です。

【学校における生活】

設問29. あなたは、学校生活の中で、自分がいやだと思うことをされることがありますか。



全設問の調査結果集計表は、調査問題「小・中学生のアンケート調査」とともに、本年度末までに教育センター内部Webページに掲載します。各学校・幼稚園でアンケートを実施し、調査結果を全国と比較するなど、今後の教育活動にご活用ください。

教職経験2年次教員研修講座「2組」

本年度より、企業等の体験に学ぶ研修「1組」と学習指導・学級経営の実践力アップを目指す研修「2組」が選択できるようになりました。「2組」は、学級経営、学習指導に係る実践的研修を通して、確かな児童生徒理解・児童生徒との良好な関係に根ざした学級経営力の向上、学習指導力の向上を図ることをねらいとした講座です。36名の先生方が「2組」を選択し、自らの課題解決に向けて研修に主体的に取り組まれました。



自分自身を見つめて

久地南小学校教諭 丸山 順子

改めて一人一人の子どもを見つめることの大切さを学びました。また、日々の実践を振り返るだけでなく、自分自身を見つめ直すよい機会となりました。学級の課題は自分自身の課題と捉えるとともに、子どもたちの成長も自分の成長として共に喜び合えるようがんばります。

教職経験3年次教員研修講座

教職経験3年次の先生方が、所属校において、授業研究を行なうことを通して、授業改善する力を身に付けていくことをねらいとした講座です。92名の先生方は、授業・保健室経営の改善・充実のためのリフレクション（振り返り）の方法について研修し、自らが作成した授業研究計画に基づいて校内で研修を進め、実践力を高められました。



一点集中全面展開

落合中学校教諭 大林 章子

夢をかなえて3年。悩みの尽きない日々でした。この研修でこれまでを振り返り、多くの課題を具体的に発見することができました。改めて、一番大切なのは授業であり、授業力を高めていくことで、様々な課題を『一点集中全面展開』できることを学ぶことができました。

中堅層教員研修講座（1班・2班）

学校組織の活性化を図るために、中堅層教員が担う役割と組織マネジメント及び教育法規の基礎知識について、講義や演習を通して習得することをねらいとした講座です。85名の先生方は、学校や幼稚園におけるミドルリーダーとしての期待を担い、学校組織活性化のために何をすべきか、何ができるのか等について、熱心に研修されました。



研修を通して得た新たな視点

安佐北高等学校教諭 相原 孝之

講座の前半では、平成18年に改正された教育基本法などの法律を、より読み深めるためのポイントを教えていただき、後半では、学校組織がいかにすればより有機的になるかのヒントを教えていただきました。新たな視点をもつとともに、今後の教育活動に非常に役立つ内容でした。

幼稚園主任研修講座

幼稚園における教育課程の編成・実施・評価等について研修し、幼稚園教育の今日的な課題解決のためのマネジメント力を高めることをねらいとした講座です。私立幼稚園を含む28名の先生方は、保育記録をもとにグループで模擬協議会を行ったり、教育課程の評価法について交流したりすることを通して、教育課程の改善におけるリーダーとしての役割について研修されました。



主任としての自覚を再認識

長束幼稚園教諭 津田 礼子

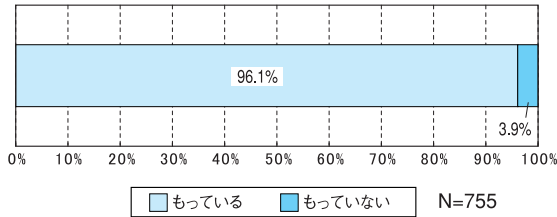
この講座を受講して参考になったのは、組織マネジメントと主任の役割についてです。特に、リーダーシップ（人と組織を動かす、研修の活力を高める、人間関係を調整する）が、自分には足りないという自覚できました。これからも講座で学んだことを実践に生かしていきたいです。

教育センターの事業に関するアンケートについて

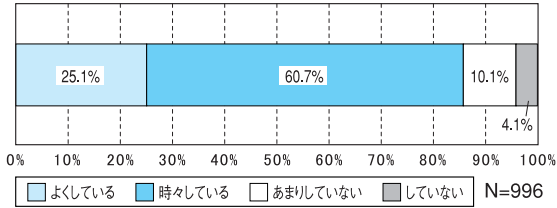
今年度も、たくさんの教職員の皆様に教育センターを活用していただきました。教育センター事業の1年間を振り返るために、先日「教育センターの事業に関するアンケート」を実施しました。その中から、「教職員研修」「自己研修支援」の2点について、集計したデータをもとにまとめました。

1 「教職員研修」について

① 研修内容を校内で共有する機会の有無



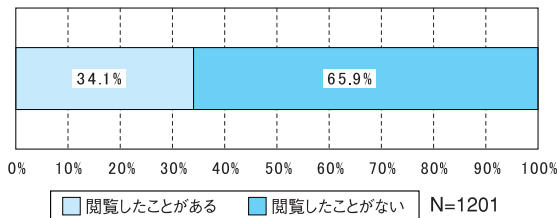
② 研修したことを実践上の参考にしているか



95%以上の受講者が、教育センターで研修した内容を、校内で共有する機会をもっていると回答しています。また、「講座に参加し、そこで学んだ内容を実践に生かしていくことができました。」等のうれしい声もいただいています。今後も、より一層実践上の参考にいただける講座を目指していきます。

2 「自己研修支援」

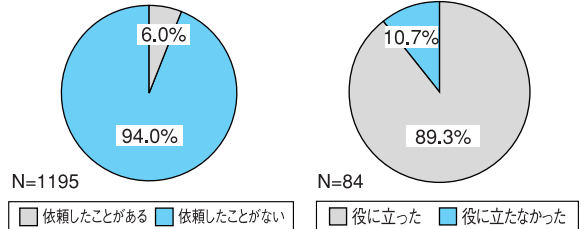
① 教育センター内部 Web ページの閲覧状況



約3割の先生方が、閲覧したことがあると回答しています。閲覧頻度の高い内容として、研修情報、学習指導案、教育用素材、特別支援教育のコンテンツがあげられます。中でも、学習指導案へのアクセスは昨年に比べ急増し、特別支援教育のコンテンツへのアクセスは昨年同様に多いという結果でした。

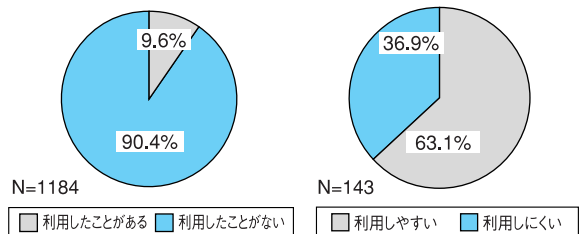
内部Webページのアドレスは<http://192.168.9.12/>です。是非ご覧ください。

② 教育実践相談の依頼の有無と有効性



依頼された方の割合は少ないのですが、相談された方の約9割が役に立ったと評価してくださっています。「学年、学校における研究推進に係る相談」、「教材研究に係る相談」、「学習指導案の作成に係る相談」等の相談が多くなっています。この他、コンピュータの活用に関する内容や、センターの所蔵する書籍等についての問い合わせなどで教育実践相談を利用いただいています。電話での相談も受けておりますので、気軽にご利用ください。

③ 授業づくり支援センターの利用の有無と利便性



授業づくり支援センター（図書資料室、教科書資料室、教科書センター、授業づくり支援室）は主に、「教育用図書の閲覧及び借受」、「教育用ビデオの閲覧及び借受」、「学習指導案の検索及び検討」、「市立学校・幼稚園の研究成果物の閲覧」等の目的で活用されています。利用数はまだ少ないのですが、利用した方からは多くの肯定的な評価をいただいています。

各学校・幼稚園の教職員の皆様の声をもとに、広報の方法も含め、今後事業の見直しを行い、より一層の充実を図っていきたいと考えています。これからも教育センターを是非ご利用ください。

最後になりましたが、教育センターの事業を振り返るに当たり、「教育センターの事業に関するアンケート」にたくさんの教職員の皆様に回答していただきました。ご協力ありがとうございました。

教育センターひろば

● 研究員研究の紹介 ●

国語科教育：香川 美雪（古田台小学校） ことばの見方・考え方を育てるための学習指導の工夫 -小学校第2学年の詩を題材として-	国語科教育：岡崎 禎子（庚午小学校） 小学校第3学年国語科における論理的に表現する力を育てる指導法に関する研究 -言語技術の習得と活用を位置付けた単元構成の工夫-
算数科教育：高杉裕美子（温品小学校） 算数的な表現力を高めるための小集団による話し合い活動の工夫	社会科教育：長岡 正敏（安東小学校） 問いを育て、ともに追究する社会科授業の開発 -小単元「筆とともに生きる熊野町の人々の生活」-
算数科教育：田淵 恭子（築々園小学校） 数学的な考え方・態度を育てる学習指導の工夫 -算数のよさがわかる練り上げ場面の活性化を目指して-	生活科教育：岩澤弘次郎（仁保小学校） 「知的な気付き」の質を高める生活科学学習指導（栽培活動）に関する研究 -単元設定と言葉かけの工夫を通して-
図画工作科教育：佐々木 芳（本川小学校） 小学校図画工作科において、見ることの「楽しさ」を味わうための鑑賞指導の工夫 -絵本を題材として取り入れて-	体育科教育：上本公次郎（原小学校） 課題を解決する力を高める体育科学学習指導の工夫に関する研究 -第5学年におけるバスケットボールの指導を通して-
生徒指導・教育相談：久保田祐徳（大河小学校） 担任が児童相互の信頼関係をはぐくむための学級活動における指導方法の工夫 -構成的グループ・エンカウンターの手法を活用して-	特別支援教育：山崎 由香（五日市中央小学校） 小学校知的障害特別支援学級における自立活動の「コミュニケーション」の内容に係る指導の充実に関する研究 - WISC-III のプロフィール分析を通して -
情報教育：高木 靖佳（龜山小学校） ICTを活用した情報活用の実践力育成のための学習指導の工夫 -話し合い活動を通して伝えたい内容の創造を目指して-	社会科教育：八松 泰子（中広中学校） 中学校社会科における「読解力」をはぐくむための学習指導の工夫 -新聞を資料として活用する手だてを通して-
生徒指導・教育相談：網藤 清次（瀬野川中学校） ライフスキルを日常生活で意識化させるための生徒指導の工夫 -意志決定スキルの獲得を目指して-	技術・家庭科教育：瀬川 啓子（東原中学校） 課題をもって家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる学習指導 -住まいの学習における課題意識を高める授業の工夫-
理科教育：加茂 優子（温品中学校） 中学校理科における科学的な見方・考え方を育てるための指導の工夫 -考察場面でイメージ図を効果的に用いる活動を取り入れて-	健康教育：山村 保古（安佐中学校） 心的要因を把握しにくい来室生徒の見立てに関する研究 -健康相談活動における個別の記録用紙の活用を通して-
総合的な学習の時間：山西 裕一（広島商業高等学校） 総合的な学習の時間において生徒が使用する教材づくりの工夫	国語科教育：高岡 秀文（沼田高等学校） 高等学校第2学年古典における生徒の学習意欲を高める学習指導の工夫に関する研究 -傍注資料とグループ学習を取り入れた指導を通して-
幼稚園教育：野上 朋子（矢賀幼稚園） 豊かな感性をはぐくむ教師の援助の工夫 -音楽にかかわる活動を中心に-	幼稚園教育：大田 恵子（緑井幼稚園） 幼稚園5歳児の言葉による伝え合いの力をはぐくむ指導法に関する研究 -教師の言葉による働き掛けに視点を当てて-
前期(4~6月)10名,後期(10~12月)11名の先生方が3か月間、専門的分野に係る指導力の向上,ミドルリーダーとしての資質能力の向上,職業意識及び社会性の向上を目指した研修に取り組みました。	幼稚園教育：岩本 弥和（落合幼稚園） 幼児の主体性をはぐくむための物的環境の工夫と教師の援助についての研究 -保育室における幼児の「遊び場づくり」活動を通して-

● 研究協力員・研究協力校 ●

教育センターでは、指導主事が研究を進めるに当たり、次の学校や先生方に、データの提供や先進的な教育実践等の協力をお願いしています。

人材育成に関する学校マネジメントの在り方に係る研究

研究協力校

本川小学校 校長 空間 浩道
江波中学校 校長 中佐 博信

教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究Ⅳ

研究協力員

三谷 展久（古田台小） 吉川 洋介（大塚小）
加茂 優子（温品中） 網藤 清次（瀬野川中）
小林 正平（早稲田小） 北谷 一水（段原小）
福永 徹（宇品小） 井藤 剛（緑井小）
満汐 順子（矢野南小） 谷田三枝子（城山北中）
國川 昌司（三和中） 瀬戸 幹夫（広島特支）

● 館内作品展示 ●



広島市立学校、幼稚園の教職員の皆様の作品を館内の各所に展示しています。年間を通して、豊かな文化の香りとともに、憩いや潤いに包まれています。展示にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

1年間皆様の実践・研究のお役に立てる情報をお届けすることに努めてまいりました。ご意見ご感想、今後取り上げてほしい記事などのご要望がありましたらお寄せください。

● ロビー展示 ●



ロビーでは、日々の実践に役立つ様々な情報を紹介しています。来所された際には、是非掲示をご覧ください。

写真は、子ども文化科学館で行われた「科学の祭典」の出品作品を、作り方の解説書と共に展示している様子です。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563
FAX (082) 223-3580

E-mail: center@edu.city.hiroshima.jp

外部Webページ: <http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/>

内部Webページ: <http://192.168.9.12/>